

# 西尾市事務事業評価シート

事務事業No.	91		事務事業名 (中事業名)	文化財保護管理事業 ( )					
予算科目	10	05	05	大事業	06	中事業	00	担当課名	文化財課
総合計画施策コード	343 344		事務開始年度	不明		備考			
根拠法令等	文化財保護法、西尾市文化財保護条例						作成月	令和3年9月	

## 事業の概要

### ●事業の内容【PLAN】

事業の目的 (どうするために)	西尾市内に所在する指定文化財の保存活用に資するため。
事業の対象 (誰(何)のために)	すべての市民
事業の概要 (具体的に何を)	指定文化財の保存活用のため、個別の文化財保存活用計画の策定をすすめる。指定文化財の日常管理業務の実施、所有者や管理者に対して支援を行う。

### ●事業費の内訳【DO】

項目	令和元年度(決算)	令和2年度(決算)	令和3年度(予算)	
事業費①	7,845,337円	23,160,545円	33,818,000円	
事業にかかる人工	1.00人	1.50人	1.50人	
事業にかかる人件費②	7,187,558円	10,899,678円	10,924,167円	
総事業費③(①+②)	15,032,895円	34,060,223円	44,742,167円	
総事業費の内訳③	使用料・手数料	0円	0円	0円
	国からの支出金	0円	6,524,000円	11,786,000円
	県からの支出金	0円	0円	0円
	市費	15,019,295円	27,536,223円	32,931,167円
	その他	13,600円	0円	25,000円
R2 総事業費③の対前年度差額	19,027,328円	R2 総事業費③の対前年度比率	126.57%	
事業費の増減理由 (対前年度比10%超の場合記入)	登録文化財である西尾市岩瀬文庫書庫・西尾市立図書館おもちゃ館の保存活用計画の策定をすすめているため			
事業費の中の 主な支出項目 (R2決算額)	項目	概要	金額	
	委託料	西尾市岩瀬文庫書庫・西尾市立図書館おもちゃ館保存活用計画策定業務を行う	12,925,000円	
		西尾城跡保存活用計画策定業務を行う	4,510,000円	

### ●指標の設定【DO】

(事業の実施にあたり、どれだけの成果(成果指標)を得るために、どれだけの活動(活動指標)をするか。)

成果指標	○事業で得たい成果を示すもので、受益者(市民)の観点から捉えた具体的な効果や効用(アウトカム)事業の目的						
	具体的な指標	文化財の所有者や管理者に保護管理業務を依頼する件数					
	指標の推移	令和元年度	単位	令和2年度	単位	令和3年度	単位
	目標値	230	件	230	件	231	件
	実績値	230	件	230	件	*****	
活動指標	○事業全体の結果を示すもので、具体的な活動量や活動実績(アウトプット)						
	具体的な指標	新しい文化財指定件数					
	指標の推移	令和元年度	単位	令和2年度	単位	令和3年度	単位
	目標値	1	件	1	件	1	件
	実績値④	0	件	1	件	*****	
活動一単位当たりのコスト(③÷④)		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
		0円		34,060,223円		*****	

●担い手の点検と事業の終期【DO】

事業の委託状況	一部委託している	委託の内容	文化財所有者への管理
事業の終了時期	未定	事業の終了時期が未定の場合、事業の抜本的な見直し時期	未定
事業の終了時期が未定の場合の理由	指定文化財を将来にわたって保存活用をしていくための制度であり事業が終了することはない。		

評 価

●個別評価【CHECK】 ◎:適正 ○:概ね適正 △:適正ではない —:いずれにも該当しない

評価項目	評価項目		評価	評価項目		評価
	妥当性	有効性		効率性	公平性	
妥当性	市が関与することが適切か(委託・民営化は不可能)		◎	単位コストは、前年を下回っているか		○
	国・県・市・民間との役割は適切か		○	事業実績や目的に対して費用がかかりすぎているか		◎
	変化する社会情勢の中で、事業の意義は失われていないか		○	委託等、手段を変更してもコスト削減は期待できないか		○
	事業に対する市民ニーズを把握しているか		○	事務の手段を工夫しても業務時間は短縮できないか		○
有効性	事業の目的は達成できているか		○	受益者に偏りはないか		○
	事務を継続することで、成果の向上が期待できるか		◎	受益者負担を求めている、また、求めている状況は適切か		◎
	事務成果が上位施策の目標達成に貢献しているか		○	受益者負担の割合は適切か		—
	他市町村と比べて上位に位置しているか		○	サービスの提供方法に公平性を欠いていないか		○
評価の総合的なコメント						
事業の方向性	(評価)	1 今後も、ほぼ現行どおり(事業の内容・規模・手法)進める				
	(理由)	文化財の保存活用を継続的に図る必要がある。				
民間委託又は市民協働拡大の方向性	文化財の保存活用に資する事業等について一部を市民協働の形で行うことは検討する必要があるが、適切な団体が見つからない。					
事業全体の課題	現状の文化財の維持管理を図っていくとともに今後も継続的に文化財の保存活用計画を策定し、計画に基づき施策をはかっていくための人員の不足。					

●近隣の状況【CHECK】

同類事業の近隣市の実施状況	文化財の保護管理について業務委託の形で地域や所有者に依頼している
---------------	----------------------------------

●参考意見等【CHECK】

市民サービス向上に向けた意見等	なし
-----------------	----

●改善案【ACTION】

今後の改善策	今後策定予定の文化財保存活用地域計画を柱に個別の文化財保存活用計画を策定し、継続的な文化財の保存活用のみならず普及啓発に努めるための施策、例えばARやVRを用いた文化財の普及啓発事業を検討していく。
--------	---

# 西尾市事務事業評価シート

事務事業No.	92	事務事業名 (中事業名)		文化財調査事業 ( )					
予算科目	10	05	05	大事業	07	中事業	00	担当課名	文化財課
総合計画施策コード	344		事務開始年度	不明		備考			
根拠法令等	文化財保護法				作成月	令和3年9月			

## 事業の概要

### ●事業の内容【PLAN】

事業の目的 (どうするために)	文化財の内容や学術的な意義を明らかにし保存や活用に生かすため。
事業の対象 (誰(何)のために)	すべての市民
事業の概要 (具体的に何を)	埋蔵文化財の測量調査や発掘調査、文化財指定や登録を目指した建造物の調査等を実施している。

### ●事業費の内訳【DO】

項目	令和元年度(決算)	令和2年度(決算)	令和3年度(予算)	
事業費①	11,063,400円	55,099,100円	49,603,000円	
事業にかかる人工	1.00人	1.00人	1.00人	
事業にかかる人件費②	7,187,558円	7,266,452円	7,282,778円	
総事業費③(①+②)	18,250,958円	62,365,552円	56,885,778円	
総事業費の内訳③	使用料・手数料	0円	0円	0円
	国からの支出金	2,437,000円	1,993,000円	2,803,400円
	県からの支出金	0円	0円	0円
	市費	15,813,958円	12,742,552円	15,829,678円
	その他 <small>事業者負担金</small>	0円	47,630,000円	38,252,700円
R2 総事業費③の対前年度差額	44,114,594円	R2 総事業費③の対前年度比率	241.71%	
事業費の増減理由 (対前年度比10%超の場合記入)	開発事業に伴う緊急発掘調査(事業者負担)の事業量増加のため			
事業費の中の 主な支出項目 (R2決算額)	項目	概要	金額	
	岡島遺跡発掘調査	老人保健施設建築に伴う緊急発掘調査(事業者負担)	29,040,000円	
	国森遺跡発掘調査	区画整理事業に伴う緊急発掘調査(事業者負担)	18,590,000円	
	旧糟谷邸図面作成	旧糟谷邸の現況建築図面の作成	2,805,000円	

### ●指標の設定【DO】

(事業の実施にあたり、どれだけ成果(成果指標)を得るために、どれだけ活動(活動指標)をするか。)

成果指標	○事業で得たい成果を示すもので、受益者(市民)の観点から捉えた具体的な効果や効用(アウトカム)事業の目的						
	具体的な指標	文化財調査報告書の刊行					
	指標の推移	令和元年度	単位	令和2年度	単位	令和3年度	単位
	目標値	1	冊	0	冊	1	冊
	実績値	1	冊	0	冊	*****	
活動指標	○事業全体の結果を示すもので、具体的な活動量や活動実績(アウトプット)						
	具体的な指標	発掘調査件数					
	指標の推移	令和元年度	単位	令和2年度	単位	令和3年度	単位
	目標値	1	件	5	件	3	件
	実績値④	3	件	5	件	*****	
活動一単位当たりのコスト(③÷④)		令和元年度	令和2年度		令和3年度		
		6,083,653円	12,473,110円		*****		

事業の委託状況	一部委託している	委託の内容	発掘調査、測量業務、建物調査
事業の終了時期	未定	事業の終了時期が未定の場合、事業の抜本的な見直し時期	未定
事業の終了時期が未定の場合の理由	文化財の保存活用のための基礎資料を得るための調査は、今後も計画的に実施する必要がある。発掘調査は埋蔵文化財包蔵地内で開発がある場合には事前に実施する必要がある。		

評 価

●個別評価【CHECK】 ◎:適正 ○:概ね適正 △:適正ではない -:いずれにも該当しない

評価	評価項目		評価	評価項目		評価
	妥当性	有効性		効率性	公平性	
評価	妥当性	市が関与することが適切か(委託・民営化は不可能)	◎	効率性	単位コストは、前年を下回っているか	○
		国・県・市・民間との役割は適切か	◎		事業実績や目的に対して費用がかかりすぎているか	○
		変化する社会情勢の中で、事業の意義は失われていないか	◎		委託等、手段を変更してもコスト削減は期待できないか	◎
		事業に対する市民ニーズを把握しているか	○		事務の手段を工夫しても業務時間は短縮できないか	○
	有効性	事業の目的は達成できているか	◎	公平性	受益者に偏りはないか	○
		事務を継続することで、成果の向上が期待できるか	○		受益者負担を求めている、また、求めている状況は適切か	◎
		事務成果が上位施策の目標達成に貢献しているか	◎		受益者負担の割合は適切か	○
		他市町村と比べて上位に位置しているか	○		サービスの提供方法に公平性を欠いていないか	○
評価の総合的なコメント		発掘調査では可能な限り現地見学会を開催するようしたり、調査成果を解説する講座や展示会を開催するなどして、市民に成果を周知する機会を設けるように努めている。				
事業の方向性	(評価)	1 今後も、ほぼ現行どおり(事業の内容・規模・手法)進める				
	(理由)	開発事業に伴う発掘調査は、文化財保護法に基づき市で対応する必要がある。建造物等の調査は、文化財の保護を図るために今後も積極的に取り組む必要がある。				
民間委託又は市民協働拡大の方向性	開発事業に伴う発掘調査のうち大規模なものは、民間業者に委託を行っている。個人住宅の建築など小規模で迅速な対応が求められる調査は職員で対応していく。					
事業全体の課題	開発事業に伴う発掘調査は、年度途中で事案が発生すると予算措置が困難な場合がある。査が続くと職員への負担が過重になる場合がある。現在の人員体制では、発掘現場の対応に手一杯で、調査成果をまとめた発掘調査報告書が未作成の遺跡が山積みとなっている。					

●近隣の状況【CHECK】

同類事業の近隣市の実施状況	近隣市でも文化財調査は積極的に実施されている。本市は各時代の遺跡や文化財が揃っており、重要なものが多い特徴がある。
---------------	---

●参考意見等【CHECK】

市民サービス向上に向けた意見等	なし
-----------------	----

●改善案【ACTION】

今後の改善策	発掘調査報告書の計画的な刊行に向けて職員体制の増強が必要。今後も重点項目を定めて、積極的に市内の文化財調査に取り組んでいきたい。
--------	--

# 西尾市事務事業評価シート

事務事業No.	93		事務事業名 (中事業名)	文化財収納施設管理事業 ( )					
予算科目	10	05	06	大事業	06	中事業	00	担当課名	文化財課
総合計画施策コード	344			事務開始年度	平成26年度		備考		
根拠法令等	文化財保護法						作成月	令和3年9月	

## 事業の概要

### ●事業の内容【PLAN】

事業の目的 (どうするために)	文化財収納施設の維持管理及び遺跡出土品の整理作業。
事業の対象 (誰(何)のために)	すべての市民
事業の概要 (具体的に何を)	文化財収納施設、幡豆文化財収納施設の維持管理及び遺跡出土品を中心とする収蔵資料の整理作業。

### ●事業費の内訳【DO】

項目	令和元年度(決算)	令和2年度(決算)	令和3年度(予算)	
事業費①	6,832,751円	2,866,370円	3,027,000円	
事業にかかる人工	0.40人	0.30人	0.30人	
事業にかかる人件費②	2,875,023円	2,179,936円	2,184,833円	
総事業費③(①+②)	9,707,774円	5,046,306円	5,211,833円	
総事業源内費③の	使用料・手数料	0円	0円	0円
	国からの支出金	0円	0円	0円
	県からの支出金	0円	0円	0円
	市費	9,707,774円	5,046,306円	5,211,833円
	その他	0円	0円	0円
R2 総事業費③の対前年度差額	-4,661,468円	R2 総事業費③の対前年度比率	-48.02%	
事業費の増減理由 (対前年度比10%超の場合記入)	会計年度任用職員人件費が別事業に付け替わったため。			
事業費の中の 主な支出項目 (R2決算額)	項目	概要	金額	
	敷地借上料	施設の敷地の借地料	1,066,988円	
	物品借上料	収蔵庫(旧白ばら学園保育室)仮設棟の賃貸料	330,000円	
	光熱水費	室町、寺部町2か所の電気料、水道料金	401,346円	

### ●指標の設定【DO】

(事業の実施にあたり、どれだけ成果(成果指標)を得るために、どれだけ活動(活動指標)をするか。)

成果指標	○事業で得たい成果を示すもので、受益者(市民)の観点から捉えた具体的な効果や効用(アウトカム)事業の目的						
	具体的な指標	遺物実測作業実施遺跡数					
	指標の推移	令和元年度	単位	令和2年度	単位	令和3年度	単位
	目標値	5	件	2	件	2	件
	実績値	5	件	2	件	*****	
活動指標	○事業全体の結果を示すもので、具体的な活動量や活動実績(アウトプット)						
	具体的な指標	新規出土品受け入れ遺跡数					
	指標の推移	令和元年度	単位	令和2年度	単位	令和3年度	単位
	目標値	1	件	5	件	3	件
	実績値④	3	件	5	件	*****	
活動一単位当たりのコスト(③÷④)		令和元年度	令和2年度		令和3年度		
		3,235,925円	1,009,261円		*****		

事業の委託状況	一部委託している	委託の内容	警備、貯水槽清掃、消防施設点検等
事業の終了時期	未定	事業の終了時期が未定の場合、事業の抜本的な見直し時期	未定
事業の終了時期が未定の場合の理由	施設が存続する限り継続。		

評 価

●個別評価【CHECK】 ◎:適正 ○:概ね適正 △:適正ではない —:いずれにも該当しない

評価	評価項目		評価	評価項目		評価
	妥当性	市が関与することが適切か(委託・民営化は不可能)		◎	効率性	単位コストは、前年を下回っているか
国・県・市・民間との役割は適切か			—	事業実績や目的に対して費用がかかりすぎているか		○
変化する社会情勢の中で、事業の意義は失われていないか			○	委託等、手段を変更してもコスト削減は期待できないか		—
事業に対する市民ニーズを把握しているか			○	事務の手段を工夫しても業務時間は短縮できないか		—
有効性	事業の目的は達成できているか		○	公平性	受益者に偏りはないか	—
	事務を継続することで、成果の向上が期待できるか		○		受益者負担を求めている、また、求めている状況は適切か	—
	事務成果が上位施策の目標達成に貢献しているか		○		受益者負担の割合は適切か	—
	他市町村と比べて上位に位置しているか		△		サービスの提供方法に公平性を欠いていないか	—
評価の総合的なコメント		昨年度から施設の移転先を探しているが、市有地の売却の方針もあり、移転先のめどは立っていない。				
事業の方向性	(評価)	6 その他				
	(理由)	建物の耐用年数が過ぎ雨漏りがひどく、代替施設への移転が早急に必要である。				
民間委託又は市民協働拡大の方向性	なし					
事業全体の課題	旧白ばら学園は、公共施設再配置計画のモデル事業として移管されたが、建物の老朽度が正しく診断されていなかったため、雨漏りが発生した。再配置計画によって本格的な工事ができず応急修理で対応しているが、雨漏りが各棟に広がり資料の収蔵に支障をきたしている。					

●近隣の状況【CHECK】

同類事業の近隣市の実施状況	近隣市では埋蔵文化財センター（安城市）や歴史博物館（刈谷市）の収蔵庫にすべての文化財を収蔵しているところもあるが、本市では岩瀬文庫や資料館で十分な文化財収蔵スペースが確保できないため、今後も別施設に収蔵場所を確保する必要がある。
---------------	--

●参考意見等【CHECK】

市民サービス向上に向けた意見等	なし
-----------------	----

●改善案【ACTION】

今後の改善策	恒久的な文化財収蔵施設の建設が難しい場合には、既存の空施設への移転が必要である。★本施設の維持管理事業は事務事業評価の趣旨になじまないように思う。
--------	---

# 西尾市事務事業評価シート

事務事業No.	94	事務事業名 (中事業名)	岩瀬文庫運営事業 ( )						
予算科目	10	05	09	大 事 業	01	中 事 業	00	担当課名	文化財課
総合計画施策コード	343.344			事務開始年度	平成15年度			備 考	
根拠法令等	博物館法、文化財保護法、文字・活字文化振興法						作成月	令和3年9月	

## 事 業 の 概 要

### ●事業の内容【PLAN】

事業の目的 (どうするために)	岩瀬文庫が所蔵する貴重な古典籍や文化財を良好な環境で保存・活用し、登録博物館として適正な運営を行うため。
事業の対象 (誰(何)のために)	日本の書物文化や古典籍、文化財を学び楽しむすべての人のため。
事業の概要 (具体的に何を)	貴重な所蔵資料を保存するため、マイクロフィルム化や修復作業を行う。また所蔵資料の魅力と価値を伝えるため、企画展示や講座、講演会などを催し、研究者ばかりでなく広く一般への普及活動に努める。さらに、資料により広範な利用のためのツールとして蔵書目録(データベース)の完成を目指し、全資料の書誌調査を行う。その他、閲覧や複写、レファレンス、資料解説等の日々の利用に対応する。

### ●事業費の内訳【DO】

項 目	令和元年度(決算)	令和2年度(決算)	令和3年度(予算)	
事業費①	57,416,797円	52,677,722円	95,501,000円	
事業にかかる人工	3.00人	3.00人	3.00人	
事業にかかる人件費②	21,562,674円	21,799,356円	21,848,334円	
総事業費③(①+②)	78,979,471円	74,477,078円	117,349,334円	
総事業費の内訳③	使用料・手数料	2,342,652円	3,723,203円	2,059,000円
	国からの支出金	0円	0円	28,200,000円
	県からの支出金	0円	0円	0円
	市費	75,016,819円	68,643,875円	86,090,334円
	その他 指定寄附	1,620,000円	2,110,000円	1,000,000円
R2 総事業費③の対前年度差額	-4,502,393円	R2 総事業費③の対前年度比率	-5.70%	
事業費の増減理由 (対前年度比10%超の場合記入)	コロナ禍による事業規模縮小の為			
事業費の中の 主な支出項目 (R2決算額)	項 目	概 要		金 額
	印刷製本	企画展の図録・ポスター・ちらし、資料調査報告書、文庫広報誌などの印刷を行う		2,924,500円
	岩瀬文庫資料書誌調査	蔵書目録の作成及びデータベース化のため、全資料の書誌調査を行う		1,918,244円
	岩瀬文庫資料マイクロフィルム撮影	原資料の保護及び複写サービスに応じるため、全資料のマイクロフィルム化を行う		7,326,990円

### ●指標の設定【DO】

(事業の実施にあたり、どれだけの成果(成果指標)を得るために、どれだけの活動(活動指標)をするか。)

成果指標	○事業で得たい成果を示すもので、受益者(市民)の観点から捉えた具体的な効果や効用(アウトカム)事業の目的						
	具体的な指標	入館者数					
	指標の推移	令和元年度	単位	令和2年度	単位	令和3年度	単位
	目標値	32,000	人	33,000	人	34,000	人
	実績値	31,586	人	17,741	人	*****	
活動指標	○事業全体の結果を示すもので、具体的な活動量や活動実績(アウトプット)						
	具体的な指標	企画展示開催日数					
	指標の推移	令和元年度	単位	令和2年度	単位	令和3年度	単位
	目標値	270	日	270	日	270	日
	実績値④	273	日	240	日	*****	
活動一単位当たりのコスト(③÷④)		令和元年度	令和2年度		令和3年度		
		289,302円	310,321円		*****		

●担い手の点検と事業の終期【D0】

事業の委託状況	委託していない	委託の内容	-
事業の終了時期	未定	事業の終了時期が未定の場合、事業の抜本的な見直し時期	未定
事業の終了時期が未定の場合の理由	市民が110年余にわたり守り伝えてきた貴重な資料を未来永劫守り伝えてゆくことは岩瀬文庫を引き継いだ市の責務であるので、事業が終了することはない。		

評 価

●個別評価【CHECK】 ◎:適正 ○:概ね適正 △:適正ではない -:いずれにも該当しない

評価	評価項目		評価	評価項目		評価
	妥当性	市が関与することが適切か(委託・民営化は不可能)		◎	効率性	単位コストは、前年を下回っているか
国・県・市・民間との役割は適切か			◎	事業実績や目的に対して費用がかかりすぎているか		○
変化する社会情勢の中で、事業の意義は失われていないか			◎	委託等、手段を変更してもコスト削減は期待できないか		◎
事業に対する市民ニーズを把握しているか			○	事務の手段を工夫しても業務時間は短縮できないか		◎
有効性	事業の目的は達成できているか		○	公平性	受益者に偏りはないか	○
	事務を継続することで、成果の向上が期待できるか		◎		受益者負担を求めている、また、求めている状況は適切か	◎
	事務成果が上位施策の目標達成に貢献しているか		◎		受益者負担の割合は適切か	◎
	他市町村と比べて上位に位置しているか		○		サービスの提供方法に公平性を欠いていないか	◎
評価の総合的なコメント		全国でも稀有な古典籍の博物館として知られ、固定ファンも多い。一方で、新規の来館者の拡充にも努めたい。				
事業の方向性	(評価)	1 今後も、ほぼ現行どおり(事業の内容・規模・手法)進める				
	(理由)	取り扱う資料の保存管理に責任を負うべきは市である。また、業務が特殊かつ専門的であるため、協働や委託に任せられる範囲も限定的であるので。				
民間委託又は市民協働拡大の方向性	軽微な作業は市民ボランティアの助勢を頼り、また書誌調査は研究者で組織した調査会に委託しているが、業務が特殊かつ専門的であるため、これ以上の協働や委託は望めない。					
事業全体の課題	発足時は3名だった担当学芸員が現在は1名に減じ、職員の負荷が年々増大している。また完成後約20年を経過した施設・設備の経年劣化が著しい。かけがえのない貴重な資料を守り伝えるため、計画的なメンテナンスと人員の補充を求めたい。					

●近隣の状況【CHECK】

同類事業の近隣市の実施状況	所蔵資料傾向が極めて特殊であるため、類似の施設がなく比較できない。
---------------	-----------------------------------

●参考意見等【CHECK】

市民サービス向上に向けた意見等	なし
-----------------	----

●改善案【ACTION】

今後の改善策	より幅広い層に訴求する企画展や講座等の普及活動、そのベースとなる調査研究や史料保存を積極的かつ安定的に行うため、適正な人員の確保に努める。また、遺存する国登録有形文化財の建造物を含めた総合的な整備計画のもと、稀有な価値を持つ文庫に相応しい環境を整える。
--------	--